

第 78 回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会
～知ろう・語ろう・取り組もう～
一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次） 第 5 回報告

研究協力者 秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究分担者 上原 里程（京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学）
研究代表者 山縣 然太朗（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の際に、「健やか親子 2 1」に関する自由集會を平成 13 年より毎年開催してきた。平成 27 年度 4 月より新たに「健やか親子 2 1（第 2 次）」が開始されたことに伴い、自由集會でも新たに「～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次）」と題し、第 2 次の取り組みについて知り、語り合う機会とすべく当集會を企画し、今回はその 5 回目であった。

今回のテーマは、「健やか親子 2 1（第 2 次）の中間評価を受けて取り組むべき課題を考えよう！」とし、本年度に中間評価を終えた「健やか親子 2 1（第 2 次）」の主な指標についての評価結果等を紹介し、中間評価を受けて今後実際に取り組んでいくべき課題について議論することを目的とした。

今回の参加者は 35 名であり、参加者は「健やか親子 2 1（第 2 次）」の中間評価結果について熱心に耳を傾け、その後のディスカッションでは現在各自が取り組まれている母子保健に関する事例についてや今後の展望、課題等について活発な議論が交わされた。参加者は大学関係者、行政、企業、医療関係と幅広く、今後取り組むべき課題についての意見交換や情報共有が行われ、有益な会となったと考える。

A. 目的

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の自由集會に、「健やか親子 2 1」が開始された平成 13 年より「知ろう・語ろう・考えよう！“一歩先行く”健やか親子 2 1」と題する集會をシリーズ化し毎年開催してきた。平成 27 年度からは「健やか親子 2 1（第 2 次）」が開始されたことに伴い、自由集會でも引き続き「健やか親子 2 1」に関する情報の共有および意見交換ができる場を設けることとし、新たに「～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次）」と題した集會を開催した。

今年度は、その第 5 回であり、「健やか親子

2 1（第 2 次）の中間評価を受けて取り組むべき課題を考えよう！」と題し、本年度に中間評価を終えた「健やか親子 2 1（第 2 次）」の主な指標についての評価結果等を紹介し、中間評価を受けて今後実際に取り組んでいくべき課題について議論することを目的とした。

本稿では、令和元年 10 月に実施した第 78 回日本公衆衛生学会学術総会における自由集會について報告する。

B. 方法

本自由集會は、令和元年 10 月 23 日（水）～10 月 25 日（金）に高知県で行われた第 78 回日本公衆衛生学会学術総会の 1 日目に申し込

みをした。開催日時および場所、予定した内容は以下の通りである。

【日時】

令和元年 10 月 23 日（水）18：30～20：00

【場所】

高知新聞放送会館 5 階 51 号室（第 7 会場）

【内容】

座長：山縣 然太朗（山梨大学）

演者：上原 里程（京都府立医科大学）

《第 1 部》

- ・「健やか親子 2 1（第 2 次）の中間評価について」（上原）

《第 2 部》

- ・ディスカッション
- ・まとめ

C. 結果

1. 参加者

当日の参加者は 35 名であった。以下に参加者の内訳を示す。

【内訳】

- ・都道府県職員：2 名
- ・保健所職員：2 名
- ・市町村職員：8 名
- ・大学関係：18 名
- ・医療機関等：3 名
- ・企業等：2 名

2. 発表内容

日時、場所および内容はいずれも予定通りに実施された。当日の実施内容の詳細を以下に示す。

《第 1 部》

・「健やか親子 2 1（第 2 次）の中間評価について」（上原）

令和元年 8 月 30 日に「健やか親子 2 1（第 2 次）」の中間評価等に関する検討会によってまとめられた「健やか親子 2 1（第 2 次）」の中間評価等に関する検討会報告書を基に、指標

の評価方法、全体の評価結果、全指標のベースライン時と最新の指標値の状況等を解説した。また、目標の再設定が必要な指標や、新たに指標を追加する指標、今後に向けて検討が必要な項目についても説明を行った。

《第 2 部》

第 1 部の講義を受けて、今後に向けて必要な項目について、特に参加者からの意見や行っている取り組みについて意見交換、情報共有がなされた。

今後に向けて検討が必要な項目は、「産後メンタルヘルス対策」「父親の育児への取り組み状況の変化」「歯科保健分野全体の取り組み状況」「ICT 端末が子どもの発達や子育てに与える影響」である。自治体からの参加者の中には、乳幼児健診時に ICT の利用と保護者がどう思っているか等について調査をしているところがあり、その結果と見解について情報共有を行った。また、父親の育児への取り組み状況の変化についても関心が高く、父親の育児参加が増える中、新たな問題となってきた父親の産後うつについても意見交換等が活発に行われた。

D. 考察

今回の自由集会は、「健やか親子 2 1（第 2 次）」開始後、5 回目の自由集会であった。第 1 部では、「健やか親子 2 1（第 2 次）」の中間評価結果についての説明を行った。

第 2 部では、第 1 部の内容を踏まえ、今後に向けて検討が必要な項目についての議論、意見交換、情報共有を行った。

議論や意見の中には、ICT の問題について ICT の使用と保護者の意識についての調査をしている自治体が結果を共有してくださり、今後どの自治体でも取り組んでいく喫緊の課題

であるという共通の認識が持てたと考えられる。また、父親の育児参加が増えた一方で問題となってきた父親の産後うつについても情報共有がなされ、新たに取り組むべき課題として改めて認識を持つことができた。

また、様々な分野の参加者であったことから、多方面からの意見が挙げられ、大変有意義な会となったと思われる。

E. 結論

本年度の自由集会は、第1部は「健やか親子21（第2次）」の中間評価結果についての講演、第2部は中間評価結果を受けて今後取り組むべき課題についてのディスカッション、と2部構成で実施した。第2部のディスカッションでは、行政の方や大学関係者、企業等、様々な分野の参加者による意見交換、情報共有がなされた。その内容としては、今後検討すべき課題としてのICTについてや父親の産後うつについて等が特に議論された。今回の会は中間評価結果を受けて、最終評価に向けた次の5年間に何をすべきかを考える有益な機会となったと考える。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし